

目次

第一章 日本を変えるステージの始まり 市川守弘

北電からの「お願い」と「お知らせ」／電気の必要量は私たちが決めること／絶対的安全は嘘だった／相対的安全性というごまかし／政・産・官・学のカルテット／泊原発の廃炉を求める訴訟、そして国民的大運動／裁判所は信用できるのか

■ 原発と向き合う—それぞれの現場から 1

泊原発をなくす希望の鐘 斉藤武一

第二章 倫理観から見た原発の正体 常田益代

忘れていた「安心して暮らせる国」／原発と命の尊厳は共存できない／活動期に入った地震大国・日本／手におえない使用済み核燃料／難題の使用済み核燃料の保管／作業員の被曝で成り立つ原発／子どもの健康をないがしろにした日本／生命誕生を恐怖に変えた原発／不可逆性の原発事故と生存権／無毒化できない放射性物質／泊一〇〇キロ圏内に六割の道民／フクシマ事故を正面から受け止めたドイツ／国民の安全より原発再稼働の日本／「軽視、傲慢、無責任、不義」／行動を起こし始めた市民たち／原発の「安全神話」も崩壊／倫理観が欠如した東京電力／地球市民としての責任／集中独占型から地域分散型発電へ／未来への贈り物を残そう

■ 原発と向き合う—それぞれの現場から 2

命を守り育む農業を守る 村上順一

■ 原発と向き合う—それぞれの現場から 3

雑木林の暮らしから 清水晶子

第三章 泊原発に迫る地震と津波の危険 小野有五

福島第一原発より危険な泊原発

一、大地震はなぜ起きる—地球上のプレート運動とマントル対流

東西に移動している太平洋プレート／世界の主な地震はすべてプレート境界で起きている／世界の原発のほとんどは安定大陸の上にある／日本列島は四つのプレートのぶつかる場所にある／太平洋プレートの沈み込みと巨大地震／日本海側のプレート境界／新生プレート境界？／「新生プレート境界」の複雑な動

き／ゆるやかに沈み込むユーラシア・プレート／アムール・プレートとオホーツク・プレート／

二、海底の活断層が警告する大地震と巨大津波

鯨になって海底を見ると／ヒグマのいない奥尻島／※コラム 気候変化と海面変化／奥尻海盆と後志トラフ／奥尻海嶺、後志トラフ、奥尻海盆の成因／南西沖地震を起こした断層は／「リバンウンド地震」が起きる？／都合の悪い活断層を認めようとする電力会社／表層しか見ない地質学、全体を見る変動地形学／海底の活断層をどう見るか／原発に最も近い活断層／後志トラフ西縁断層と連動地震／※コラム 疑問だらけの地震動と原発の耐震性

三、奥尻島と南西沖地震

ふしぎな島、奥尻島／※ベンチとノッチ／※S面（M1面）／奥尻島は傾きながら隆起した！／歴史が教えてくれる地震性隆起のすごさ／大地震で地盤が沈下することもある／くりかえし起きていた奥尻の地震と津波／四つの津波堆積物／なぜ津波は証拠を残しにくいのか／泊原発周辺の津波堆積物はあるか／地震性隆起を示す泊原発周辺の地形／地盤隆起の想定がない原発

■ 原発と向き合う——それぞれの現場から 4

地域のエネルギーで地域が潤うしくみへ 宮内泰介

第四章 泊原発は構造的にどこが危険なのか

齋藤健太郎・林千賀子

一、原子力発電のしくみと基本構造

核分裂反応と放射性物質／極めて重要な役割を持つ水／加圧水型と沸騰水型の原子炉／加圧水型の基本構造の欠点／過去における海外での重大事故

二、原子力発電所における重大事故——冷却材喪失事故

冷却材喪失事故とは／経年劣化で生じる「応力腐食割れ」／困難な保守・点検での「応力腐食割れ」発見／多発する蒸気発生器の損傷事故／過去の重大な蒸気発生器事故／放射性物質が漏れ出す再生熱交換器事故／ECCS作動の保障のない冷却材喪失事故

三、原子力発電所における重大事故——原子炉の破壊

大惨事につながりかねない脆性破壊／泊原発でも脆性破壊の危険性が／加圧熱衝撃（PTS）による破壊の可能性

四、安全性を確保できない検査体制

欠陥の大きさと対応しない欠陥信号／後追い処置では事故は防げない

五、待ち受けるさらなる危険——三号機プルサーマル計画

増え続ける猛毒物質プルトニウム／人間の力では制御不可能な原発

■ 原発と向き合う——それぞれの現場から 5

被災者と共につくる街づくり みかみめぐる

第五章 フクシマで起きたことが泊で起こったら難波徹基

一、福島原発事故の被害の大きさ

対岸の火事ではない福島の事故／チェルノブイリと並ぶ史上最悪の原発事故／人体細胞を破壊する放射性物質／関東、東北にも拡散した放射性物質／気象条件に左右された拡散地域／地域社会を崩壊させた原発事故／生まれ故郷を追われた住民たち／個人の尊厳を失う危機に直面／自主的避難民の苦悩、残る住民の苦悩／低線量被曝による健康被害の危険／後を絶たない農作物からの放射能検出／産業活動全般に被害深刻

二、泊原発の重大事故で想定される被害

西風で被害受ける札幌圏／原発事故で崩れる「北海道ブランド」

■ 原発と向き合う——それぞれの現場から 6

故郷を奪われる苦しみ 宍戸隆子

第六章 原発なしでも北海道はやっていける 菅澤紀生

一、冬も原発なしで乗り切れる北海道の電力供給

わずか二五パーセントだった原発発電量／供給予備力と過去の最大需要／三・

一一以降の泊原発の稼働状況／電力不足をあおる北海道電力——

二〇一一年冬の予測と実績／二〇一二年夏の予測と現実／二〇一二年?一三年の冬も電力は足りている／北本ケーブルを計算外にする北電／こんなにある北海道の再生可能エネルギー

二、そもそも泊原発三号機はいらなかった

道議会で三号機の何が議論されたのか／伸び率・年平均二パーセントという過大な見積もり／三号機を容認した堀知事／※コラム 「道民のご意見を聴く会」での「やらせ」問題／電力需要の増加はわずか年約〇・五パーセント

三、これからのエネルギーについて考える

「代替エネルギーが必要」という間違った主張／ドイツのエネルギー戦略／

エネルギーの効率化をめざすドイツ／※コラム 一次エネルギーと熱の損失／
熱を捨てずに利用するコジェネレーション／スペインでの再生可能エネルギー
発電／

スペインにおける発電と送電の実態は／エネルギーを効率化しやすい北海道／
再生可能エネルギー基地北海道／再生可能エネルギー一〇〇パーセントの村／
エネルギー地産地消での地域循環型経済に

■ 原発と向き合う——それぞれの現場から 7

全国に広がる北海道発「市民風力発電」 鈴木亨

七章 司法は福島事故に重い責任がある 海渡雄一

国や東電からの情報が一切なかった地元／多発する災害関連死／人格権を根拠
にした民事訴訟／原発の潜在的危険性を指摘した最高裁判決／安全審査の欠落
認めたもんじゅ高裁判決／旧耐震設計指針の不合理認めた志賀原発訴訟／新耐
震設計の確認中だった浜岡原発／浜岡原発が抱える問題点／静岡地裁が犯した
誤り／国の判断を追認するばかりの最高裁／保安院指示に屈した原子力安全委
員会／旧指針の安全基準を追認した静岡地裁／保安院と東電を断じた国会事故
調／稼働直前の原発を廃炉にしたドイツ／原発のない社会の実現を目指して

[おわりに](#)